

## 竹下復興大臣臨時記者会見録

(平成27年1月27日(火) 16:35～16:39 於) 日本橋ふくしま館)

### 1. 発言要旨

今日は、ニュージーランド、オーストラリア、カナダ、英国の大使、4人の大使に来ていただきまして、本当に「福島、頑張れ」と背中を押されたような気持ちがありました。発災の際にも世界中からいろいろな支援を受けましたけれども、まだもがいている福島に対して「もっと頑張れ」という、今日は本当に元気をいただいたなど。これから、さらにさらに加速化していかなきゃいかんということを、改めて自らに言い聞かせたところでもあります。多分、知事も喜んでいてと思いますよ。4人の大使がそろうなんてないですから。喜んでいてと思います。

### 2. 質疑応答

(問) 改めてなのですけども、今日、外国の大使を呼ばれたということなのですけども、その主なねらいというのをあらためてお聞かせいただけますでしょうか。

(答) 正直言いまして、私は言い出しっぺではないものですから、「お前、来い」と言われて。もともとニュージーランドの大使と誰かが話をして「こういう会をやろう」ということになって、それを農水大臣が「そうだ」ということになって、「お前、来い」ということで、私は今日、参加いたしました。本当にありがたいことだと思っています。

(問) 今後、販路拡大のために海外にいかにか売り込んでいくというか、そういうことも重要になってくると思うのですけれども、それについて、大臣の考えをお聞かせいただけますか。

(答) 残念ながら、特に魚を中心に、まだ日本のものはだめだという地域が、1桁に減ってはきていますけど、数カ国あることは事実でありまして、そういうところの誤解をしっかりと解いて、しかも安全なものしか出していないよということをしっかりと理解をしていただいて、世界中に思い切って売っていけるという態勢を我々はつくっていかなければならないなど。海外に対してはそうでありますし、その前に国内にも、残念ながらまだ風評の被害が残っておりますので、それも乗り越えていかなきゃいかんなど思っております。

(問) 今日、特にニュージーランドの大使が、我々も生産国であって、生産者を支援したいというお話をされていましたが、それについて大臣のお考えをお聞かせください。

(答) ほとんどの国が、今、日本と、例えばTPPであったり、例えば二国間であったり、農業交渉をしている国なのです。ですから、農林大臣はだいたい知っているのですね。だけど、それと震災における災害は違うぞと。やはり同じ生産者として、生産者の苦しみもわかる、自分たちが支援するという思いを、多分ニュージーランドの大使はお話しになったのだろうと。ものすごくありがたかったと思っております。

(問) 先ほど大臣がご指摘になったように、普通4カ国の大使が一つのイベントに来ると

いうのはなかなかなくて、普通のイベントだったら、頼んでも来てくれないのではないかと思うのですね。やはり、ここに各国の復興に対する思いというのがあったと思うのですけれども、大臣としてはいかがでしょうか。

(答) それはもう本当に心から感謝して受けたいと思っております。見せかけだけ、あるいは言葉だけの応援ではなくて、発災のときにも世界中がいろいろな、お金であったり救援物資であったり、あるいは機械であったり、さまざまなものを提供して支援してくれました。4年が経っておりますけれども、事情がわかっている今日の4人の大使のように、「生産者、まだ困っているぞ」「福島、まだもがいているぞ」ということが分かっている皆さん方が、改めてこういう具体的な行動をしてくれたというのは、本当に感謝してもしきれないことはいないというぐらいありがたく思っております。

(以 上)